Osaka University Knowledge Archive

Title	JFL環境における中国人日本語学習者の日中同形類義語（Overlap 語）の誤用 ： 意味と品詞の誤用をめぐって
Author(s)	呂, 倬菡
Citation	大阪大学言語文化学. 2023, 32, p. 83-98
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/91159
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

JFL 環境における中国人日本語学習者の日中同形類義語（Overlap 語）の誤用

—意味と品詞の誤用をめぐって—*

呂　倬菡**

キーワード：中国人日本語学習者（CLJ）、日中同形類義語（O 語）、二重誤用

汉语与日语虽然为不同的语言体系，但是同属于汉字文化圈，因此两语言中有着大量的同形词存在。然而，尽管中日同形词在字形（繁体，简体等的因素不考虑）上相同，但在语义，词性等方面上未必会完全一致。特别是既存在中日语义重合的共有义项，也存在各自独有义项的中日同形近义词（Overlap 词），是被公认为最难习得的中日同形词。然而相对较少的的中日同形词误用研究里面，大多数的研究的注目点都只在于语义因素对于学习者的影响，而对于词性因素，以及将语义和词性相结合起来探讨的误用研究较为匮乏。因此本研究以中日同形近义词为研究对象，将中日近义词以【语义 + 词性】的形式进行二重分类，并对中国大学日语专业的大三和大四的中国人日语学习者（CLJ）的中日同形近义词的语义以及词性的误用情况进行了调查分析。结果表明：语义的误答数要远多于词性的误答数；语义和词性两方中既存在重合的共有项又存在各自独有项的 OO 型的中日同形近义词的误答数为最多；汉语痕迹较多的问题文的误答数较多。

基于以上结果进行考察发现，母语干扰（母语负迁移）为学习者产生误用的最大要因。尤其是在以下几种情况下母语干扰尤为容易产生。a. 中日各自的独有义项的类似度较高，b. 中日语义重合的共有义项中各自词性差异较大，c. 汉语的语义的使用的一般性（是否经常使用;使用频度）较高。除此之外，中日近义词自身要因以及语言环境的限制等要因，也是影响中国人日语学习者中日近义词学习的较大因素。尤其是日语初级学习者，由于日语能力的不足而过于依赖母语，并且在 JFL 环境下目标语的输入量以及与日语母语话者的接触等较为受限制，因此，在初级阶段的中日近义词的习得中较为容易产生误用，并且难以得到修正。因此,在初期日语学习阶段中中日同形近义词（尤其是容易产生二重误用（语义与词性相结合的误用）的中日近义词）的全面指导以及学习是不容忽视的。本研究的发现可为教师的中日近义词的指导以及学习者的学习提供借鉴与参考。

---

* JFL 环境下中国人日语学习者的中日同形近义词（Overlap 词）的误用研究－以语义和词性的误用为中心－（吕倬菡（LV Zhuohan））

** 大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程

1 はじめに

日本語と中国語の言語体系は異なるが、漢字が使われていることは両言語の共通点である。大河内（1992）は、日本語と中国語において同じ漢字（繁体字と簡体字との問題を考慮しない）で表記される語が同形語であるとしている。また、許（2014）は、日中両言語における同形語は現在 12,000 語以上存在していると述べている。そのため、中国人日本語学習者（中国語を母語とする日本語学習者 ; 以下、CLJ）は中国語の知識を活用することによって、より迅速かつ簡単に漢字を処理したり（玉岡, 2000）類推したりでき（陳, 2009）、習得上に有利さがあると考えられてきた。

しかし、漢字の形が同じであっても、意味領域が一致していない同形語が数多く存在している。このような同形語は一見同じ漢字で表記されるため、かえって誤用を引き起こす場合が多く、その原因は母語干渉だと言われている（河住, 2005; 小森･玉岡, 2010; 王, 2013; 張･谷守, 2013 など）。特に、「遠慮」[1] のような日中両言語における意味が一部重なっているが、両者の間にずれのある（文化庁, 1978）日中同形類義語（Overlap 語 ; 以下、O 語）については、学習者が語彙を共有義の部分のみ理解・推測してしまうため、より誤用を引き起こしやすいことが問題であると先行研究（加藤, 2005; 小森・玉岡, 2010 など）で指摘されている。さらに、単語は意味と品詞の統一体であり、単語の全体像を把握するために、意味と品詞の両方を見る必要がある（王, 2013）。

そこで、本稿では中国の大学の日本語学科で主に使用されている 6 冊の初級日本語教材 [2] から日中両言語の辞書の記述に基づき日中同形語を抽出し、特に、CLJ にとって誤用しやすい O 語に焦点を当てて、O 語の意味及び品詞を結びつけた「二重誤用」の実態を明らかにすることを目的とする。本稿では、二重誤用とは意味と品詞両方で同時に誤用が生じる現象を指す。

2 先行研究

2.1 日中同形語の定義

大河内（1992: 180）が言及した同形語の定義を要約すると、日本語と中国語において両方共に同じ漢字（繁体字と簡体字との問題を考慮しない）で表記される語が同形語である。さらに、潘（1995）は大河内の説に基づいて「同形語を認定する三つの条件」を提起し、①表記が同じである（繁体字と簡体字の違い、送り仮名、形容動詞の語尾などの非漢字要素を考慮しない）、②共に同じ出自と歴史的な繋がりを持っている（そのうち、

[1] 日中両言語において、共に「深い考え」という意味があるのに対して、日本語には「人に対して、言葉や行動を慎み控える」という意味がある。
[2] 書誌情報は参考文献の「日本語教材」の欄に記した。

二字音語が最も多く、その他にも三字音語や四字音語などがある)、③現在日中両言語の中で共に使われている（潘, 1995: 19-20、筆者訳)、の 3 つを挙げている。本稿では潘（1995）の「同形語を認定する三つの条件」に基づき同形語を認定し、また、同形語の中で二字音語が最も多いため、二字音語を抽出して分析の対象とする。

2.2 日中同形語の分類

2.2.1 意味による分類

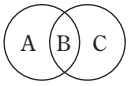
同形語に関する研究では、意味観点による分類の方法は多岐にわたる。その中で文化庁（1978）の分類方法は、多くの同形語研究（加藤, 2005; 陳, 2009; 連, 2013; 張, 2017 など）で採用されているため、最も代表的な同形語の分類方法だと言える。そのため、本稿でも文化庁（1978）の分類方法を援用する。文化庁（1978）は日本語における漢字語を意味の相違に基づいて S・O・D・N（Same / Overlap / Different / Nothing の頭文字）という 4 種類に分けた。

「S」: 日中両国語における意味が同じか、または、きわめて近いもの。（例：外国。日中両言語において共に「自分の国以外の国」という意味）[3]
「O」: 日中両国語における意味が一部重なっているが、両者の間にずれのあるもの。（例：遠慮。脚注 1 を参照）
「D」: 日中両国語における意味が著しく異なるもの。（例：手紙。日本語は「人に送る文書」という意味だが、中国語は「トイレットペーパー」という意味）
「N」: 日本語の漢語と同じ漢字語が中国語に存在しないもの。（例：都合）
（文化庁, 1978: 14-16 引用）

三浦（1984）は日中両言語の漢語の意味範囲を比較し、O 語は意味範囲の広さによって、さらに 3 つの下位分類ができるとしている。三浦（1984）の分類観点に従い、O1、O2、O3 とし、分類を表 1 にまとめる。

[3] 丸括弧内の用例及び説明は、筆者が作成したものであり、以下の「O」「D」「N」も同様である。

表１　O 語の下位分類（筆者作成）

分類	意味（三浦 1984: 103 引用）	関係図	語例
O1	意味がある程度重複しているが、日本語の方が意味範囲が広い単語。	A：日本語の意味 B：共有義	椅子 A：地位 B：腰掛け
O2	意味がある程度重複しているが、中国語の方が意味範囲が広い単語。	C：中国語の意味 B：共有義	比較 C：より～（程度） B：比べ合わせる
O3	意味がある程度重複しているが、日本語には中国語にない意味があり、中国語には日本語にない意味がある単語。	 A：日本語の意味 B：共有義 C：中国語の意味	信号 A：信号機 B：合図 C：兆し

2.2.2 品詞による分類

同形語の品詞に関する研究において、石・王（1983）、侯（1997）、熊・玉岡（2014）がよく知られている。石・王（1983）と侯（1997）は同形語の品詞のずれに焦点を当てて「形容詞（中国語）―自動詞（日本語）」の形で分類を行い、石・王（1983）は 7 タイプに、侯（1997）は 8 タイプに分けた。しかし、同形語の品詞の対応関係は非常に複雑であり、全ての語を一対一に 7 タイプと 8 タイプに収めるのが難しいとされている（王, 2013; 熊・玉岡, 2014 など）。そのため、熊・玉岡（2014）は、集合論の観点に基づいて、抽出した同形語を「日＝中（日中両言語で品詞が完全に同じである語）」「日⊃中（日中両言語で同じ品詞もあるが、日本語に独自の品詞もある語）」「日⊂中（日中両言語で同じ品詞もあるが、中国語に独自の品詞もある語）」「日∪中（日中両言語で共有する品詞もあるが、それぞれ独自の品詞も持つ語）」「日≠中（日中両言語で品詞が完全に異なる語）」の 5 タイプに分けた。本稿は、熊･玉岡（2014）の 5 つの品詞の分類に基づき、「日＝中」＝ S 型（例：教師。日中両言語共に名詞）、「日⊃中」＝ O1 型（例：出席。日本語は名詞と動詞だが、中国語は動詞のみ）、「日⊂中」＝ O2 型（例：入口。日本語は名詞だが、中国語は名詞と動詞）、「日∪中」＝ O3 型（例：刺激。日中両言語共に動詞があるが、日本語には名詞があるのに対して、中国語には形容詞がある）、「日≠中」＝ D 型（例：丈夫。日本語は形容動詞、中国語は名詞）とし、O 語の品詞を分類する際に、S 型、O1 型、O2 型、O3 型、D 型を使用する。

2.2.3 意味と品詞を結びつけた二重分類

王（2013）は、単語は意味と品詞の統一体であるため、同形語を分類する際に、意味と品詞を結びつけて行えば、より同形語の全体的な特徴を把握できると述べている。ま

た、同形語に対して「意味＋品詞」の分類基準で二重分類を行ったが、O 語を分類する際に O2 型、O3 型のみを対象とした。本稿は王（2013）の二重分類の枠組みに従い、さらに O1 型を加えて O 語の二重分類を行い、15 タイプに分けた。分類結果は表 2 に示した通りである。

表 2　O 語の意味及び品詞による分類（筆者作成）

品詞／意味	S 型	O1 型	O2 型	O3 型	D 型
O1 型	O1S 型	O1O1 型	O1O2 型	O1O3 型	O1D 型
O2 型	O2S 型	O2O1 型	O2O2 型	O2O3 型	O2D 型
O3 型	O3S 型	O3O1 型	O3O2 型	O3O3 型	O3D 型

2.3 O 語の誤用に関する研究

王（2013）は同形語の誤用について検討し、主に意味の誤用、品詞の誤用、意味と品詞における二重誤用という 3 つのパターンがあることを明らかにした。さらに、王（2013）は CLJ の場合、O1 型における意味、品詞の片方或いは両方の誤用は生じにくいと指摘し、研究対象語彙から除外している。また、王（2013）は二重誤用が生じやすい O 語をより細分化し、OO 型（O2O2 型、O2O3 型；O3O2 型、O3O3 型）と OD 型（O2D 型；O3D 型）に分類した。

張（2017）は、陳（2009）の意味使用の一般性、つまり、ある意味が一般的に使用されているかどうかという考えを加え、同じ中国語の漢字語が日本語の意味使用の一般性と一致するかどうかによって、O 語を 6 分類にした。そして、CLJ を対象に O 語の意味の習得状況を調査し、正用文と誤用文を判断する際に、学習者に母語とする中国語の漢語知識からの転移が見られ、特に誤用文を判断する場合、意味使用の一般性が一致する O 語でより誤用が生じやすいと述べている。

以上の先行研究から見ると、同形語であっても日中両言語において意味と品詞が異なるものがあり、CLJ の誤用を招いてしまう可能性があるということが分かった。また、日中両言語の意味使用の一般性が一致する O 語の方がより誤用が生じやすく、多義性を持つ O 語の習得は困難であることも分かった。しかし、多くの先行研究は、意味と品詞を切り離して捉えてきた。また、意味と品詞両方共に触れた王（2013）においても、O1 型については検討されておらず、さらに、CLJ に対して O1 型がなぜ誤用が生じにくいかも言及されていない。そのため、本稿は、先行研究の問題点を踏まえて、O 語の意味及び品詞による二重分類を行い、王（2013）が除外した O1 型を含め、誤用実態調

査を行う。前述した研究目的を達成するために、① CLJ はどのような O 語を二重誤用しやすいか、② CLJ の O 語誤用に関わる要因は何か、という 2 つの研究課題を設定し分析する。最後に日本語教育に関わる誤用防止策についても少し触れたい。

3 研究方法

3.1 調査協力者

中国の湖北省のある大学の日本語専攻に在籍している 3 年生(47 名)と 4 年生(13 名)、計 60 名に誤用実態調査を行った。全員が『新編日本語 第 1 冊（修訂版)』及び『新編日本語 第 2 冊（修訂版)』(日本語能力試験 N3 に相当）の学習を終えている。調査の結果、有効回答者は 50 名である。

3.2 調査対象語彙の抽出及び調査票の作成

本稿は、調査対象語彙の抽出について、具体的に次のような手順をとった。

1. 本稿が採用する同形語の定義に従い、『新明解国語辞典（第 6 版)』及び『現代漢語辞典（第 6 版)』の記述に基づいて日中の意味・品詞の対照を行い、計 6 冊の教材の新出語リストから 1,268 語の同形語を抽出する。
2. 文化庁（1978）の分類方法に従って O 語を抽出し、王（2013）の二重誤用の分類の枠組みに基づき、O 語について意味と品詞を結びつけた二重分類を行い（例：O1O2 型)、O 語の分類表[4] を作成する。
3. 先行研究（王, 2013; 小森, 2017; 張, 2017）で示された語（20 語）を参考に、筆者が作成した O 語の分類表から CLJ が中国語知識を用いて誤用しやすい傾向がある[5]37 語を抽出する。
4. 抽出した 37 語について『日本語学習者作文コーパス』『学習者作文コーパス「なたね」』『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ)』で一語ずつ検索する。
5. 学習者の誤用（文）を参考に、CLJ が誤用しやすい語彙を 25 語に絞り込む。表 3 は絞り込まれた 25 語の一覧である。

---

[4] 語彙の分布（語数)：O1S（99)、O1O1（49)、O1O2（3)、O1O3（0)、O1D（0)；O2S（88)、O2O1（53)、O2O2（35)、O2O3（17)、O2D（4)；O3S（73)、O3O1（44)、O3O2（18)、O3O3（7)、O3D（0)。

[5] 日中両言語の独自義が極めて近いことや、中国語の使用方法・習慣に従い、使いやすい傾向があることによって判断する。例えば、「最近」について、日中両言語は共に「近い過去」を表すのに対して、中国語は「近い将来」をも表すことができるため、「最近、映画を見たい」という誤用が生じやすい。そのため、両言語の意味・品詞において CLJ が容易に判断しやすい部分などの問題文を作成しないこととする。

表 3　誤用実態調査で使われた 25 語

品詞／意味	S 型	O1 型	O2 型	O3 型	D 型
O1 型	O1S 型（3）：以来、時間、全然	O1O1 型（4）：現金、詳細、発表、評判	O1O2 型（2）：景気、最終		
O2 型	O2S 型（1）：以外	O2O1 型（2）：合作、処理	O2O2 型（1）：精神	O2O3 型（2）：活躍、最近	O2D 型（1）：緊張
O3 型	O3S 型（3）：発展、場合、表示	O3O1 型（1）：発生	O3O2 型（2）：一切、一般	O3O3 型（3）：刺激、単純、大事	
計	25				

最後にこの 25 語について、日中両言語における意味使用の一般性[6]及び誤用が生じやすい傾向がある意味と品詞に注目し、正用文 57 文、誤用文 56 文の計 113 の例文[7]を作成した。正用文・誤用文の作成及び正用・誤用の判断は、筆者が日本語教育経験 20 年以上の日本語母語話者の教師と一緒に行った。また、難易度について、『日本語教育語彙表』で検索し、旧日本語能力試験出題基準レベルに従い、各語彙のレベルを記述した。正誤例文作成に当たっては、『JCK 作文コーパス』『日本語学習者作文コーパス』『学習者作文コーパス「なたね」』『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）』を参考にした。このようにして作成した正誤例文に基づき、以下の例のような調査票を作成した。そして、問題文における O 語の意味使用と品詞使用が正しいかどうかを 60 人の調査協力者に正誤判断文の形（「○ / ×」を選ぶ）で 113 問に回答してもらった。回答結果について単純集計で 113 文に関する 3 年生・4 年生、及び 60 人全員それぞれの誤答率を算出し、結果を分析する。

例）　処理（O2O1）[8]

（1）これは適当に処理しなければならない。（意味・品詞正用）

（2）売り場に残った商品を全部処理した。（意味誤用→「処分」【中】[9]・品詞正用）

---

[6] 本稿の意味使用の一般性の判断は、辞書の記述及び『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）』『BCC 漢語語料庫』の検索結果によって行う。

[7] 25 語の例文配置：O1S 型：「全然（正 :4; 誤 :2）」「時間（正 :2; 誤 :1）」「以来（正 :2; 誤 :1）」O1O1 型：「詳細（正 :2; 誤 :2）」「発表（正 :2; 誤 :2）」「評判（正 :3; 誤 :3）」「現金（正 :2; 誤 :1）」O1O2 型：「景気（正 :3; 誤 :1）」「最終（正 :2; 誤 :2）」O2S 型：「以外（正 :2; 誤 :3）」O2O1 型：「処理（正 :2; 誤 :3）」「合作（正 :2; 誤 :2）」O2O2 型：「精神（正 :2; 誤 :2）」O2O3 型：「最近（正 :2; 誤 :2）」「活躍（正 :2; 誤 :2）」O2D 型：「緊張（正 :2; 誤 :3）」O3S 型：「場合（正 :2; 誤 :2）」「表示（正 :2; 誤 :4）」「発展（正 :2; 誤 :3）」O3O1 型：「発生（正 :2; 誤 :3）」O3O2 型：「一切（正 :2; 誤 :2）」「一般（正 :3; 誤 :3）」O3O3 型：「大事（正 :3; 誤 :3）」「単純（正 :3; 誤 :2）」「刺激（正 :2; 誤 :2）」

[8] 調査票の例のうち、下線部は本稿での説明のために追記したものであり、調査票には記載していない。

[9] 中国語の使い方。

（3）データを入力したら、自動的にデータが処理する。（品詞誤用→「他サ」･意味正用）

上記の「処理」については、日中両言語で共に「事を取りさばいて始末をつける」という意味がある。一方、中国語には「（在庫品を）処分する」「処罰する」という独自義もある。日本語では、問題文の（2）とは言えない。つまり、「処理」の意味領域は中国語が日本語より広い。一方、品詞については、日中共に動詞として使えるが、日本語では他動詞[10]でしか使えないのに対して、中国語では自動詞も他動詞も両方使用できる。調査協力者が（2）と（3）の誤用文を正しいと思って選んだ場合、日本語の意味・品詞への理解がまだ不十分であり、習得が進んでいない可能性がある。さらに、中国語の「（在庫品を）処分する」「処罰する」の意味使用の一般性が高いため、母語からの負の影響を受けている可能性もあると考えられる。

また、学習者の基本情報を知るために、学習者の名前・性別・学年、日本語能力に関する質問項目を作成した。2021 年 12 月 6 日に 2 人の日本語教育経験 10 年以上の教師に調査票の内容を確認してもらったところ、調査票の質問項目の記述には学習者の誤解を招くものや理解できなかったりするものが確認されなかったため、2021 年 12 月 7 日に誤用実態調査を実施した。

4 O 語の誤用実態調査の結果及び考察

3 節で述べた方法によって O 語に関する誤用実態調査を実施した。以下に結果を示す。

4.1 意味と品詞

113 ある正誤例文のそれぞれにおける 60 人の協力者全員の誤答率を算出し、4 段階に分け、それぞれの段階の問題数を表 4 に記述した。

[10] 王（2013）は、自他動詞の誤用は品詞レベル以下の誤用であるが、CLJ では非常によく見られる誤用であり、また、品詞の誤用に関する先行研究でほとんどを品詞レベルの誤用として扱っているため、自他動詞の誤用を品詞レベルと見なすと言う。従って、本稿も同様に自他動詞の誤用を品詞レベルと同一視する。

表 4　113 問の集計結果

誤答率（意味及び品詞）に関わる問題	問題数（比率）
誤答率が 75％以上の問題	6（5.3％）
誤答率が 50％以上、75％未満の問題	39（34.5％）
誤答率が 25％以上、50％未満の問題	46（40.7％）
誤答率が 25％未満の問題	22（19.5％）
合計	113（100％）

表 4 の集計結果によると、113 文のうち、45 文の誤答率は 50％以上であり、全体の約 4 割にも上る。そのため、本稿は意味・品詞の誤答率が 50％以上となる O 語に着目して分析する。誤答率が 50％以上の O 語（20 個）は、表 5 に示した通りである。

表 5　誤答率が 50％以上の O 語

No.	語彙（分類）	JLPT [11]	質問項目 [12]	誤答率		
				全体	3 年生	4 年生
1	一般（O3O2）	2	一般な状況。（品詞誤用・意味正用）	80.0%	80.9%	76.9%
2	発表（O1O1）	2	インターネットの利点は、だれでも自分の思うことを発表することができることだ。（意味誤用・品詞正用）	78.3%	78.7%	76.9%
3	場合（O3S）	3	彼女は人の大勢いる場合に出ると恥ずかしくなる。（意味誤用・品詞正用）	76.7%	78.7%	69.2%
4	**発展（O3S）** [13]	2	事態はまだ発展中だ。（意味誤用・品詞正用）	75.5%	72.3%	**84.6%**
5	全然（O1S）	3	全然オッケーです。（意味・品詞正用）	75.0%	78.7%	61.5%
6	**緊張（O2D）**	2	緊張な国際情勢。（品詞誤用･意味正用）	75.0%	70.2%	**92.3%**
7	**合作（O2O1）**	級外	電気自動車を、日中で合作生産する。（意味誤用・品詞正用）	75.0%	72.3%	**84.6%**
8	**処理（O2O1）**	2	売り場に残った商品を全部処理した。（意味誤用・品詞正用）	70.0%	66.0%	**84.6%**
9	**以外（O2S）**	3	乗車券以外、特急券が必要だ。（品詞誤用・意味正用）	70.0%	61.7%	**100.0%**
10	時間（O1S）	4	急ぎの旅行で、滞在時間は 3 日だけだった。（意味誤用・品詞正用）	68.3%	70.2%	61.5%
11	発生（O3O1）	1	私自身にもそういったことが時々発生するから、悩んでいる。（意味誤用・品詞正用）	68.3%	72.3%	53.8%

[11] 旧日本語能力試験出題基準レベル（N1~N4）
[12] 表 5 で取り上げられた正誤例文は各語の複数の正誤例文において最も誤答率が高いものである。
[13] 太字は 4 年生の誤答率が 3 年生の誤答率より高い語である。

12	**表示（O3S）**	級外	心から感謝を表示する。（意味誤用・品詞正用）	68.3%	68.1%	**69.2%**
13	精神（O2O2）	2	精神を出して大いにやる。（意味誤用・品詞正用）	66.7%	70.2%	53.8%
14	**大事（O3O3）**	3	一生の大事だ。（意味誤用・品詞正用）	66.7%	61.7%	**84.6%**
15	現金（O1O1）	2	本当に現金のやつだ。（品詞誤用・意味正用）	61.7%	63.8%	53.8%
16	**一切（O3O2）**	1	一切の困難を、一人で克服した。（意味誤用・品詞正用）	58.3%	57.4%	**61.5%**
17	景気（O1O2）	2	景気よく太鼓を打ち鳴らす。（意味・品詞正用）	55.0%	61.7%	30.8%
18	最近（O2O3）	3	最近、映画を見たい。（意味誤用・品詞正用）	55.0%	55.3%	53.8%
19	刺激（O3O3）	2	このゲームはとても刺激だった。（品詞誤用・意味正用）	55.0%	57.4%	46.2%
20	**活躍（O2O3）**	2	田中さんはとても活躍だ。（品詞誤用・意味正用）	53.3%	51.1%	**53.8%**

表 5 の集計結果を見ると、意味誤用（12 文）は品詞誤用（6 文）より多かった。さらに、学年別の集計結果を見ると、4 年生の誤答率が 3 年生より高い語は 9 語（「発展」「緊張」「合作」「処理」「以外」「表示」「大事」「一切」「活躍」）であり、全体の誤答率が 50％以上の O 語の 5 割近くを占めている。その中で、意味誤用（6 文）は品詞誤用（3 文）より多かった。そのため、意味は品詞より誤用が生じやすく、高学年になっても O 語の習得が不十分である。

続いて、意味と品詞のそれぞれの観点から分析していく。意味の観点から見ると、例えば、O3S 型とされた「発展」（表 5, No.4）について、日中両言語には a.「物事がより進んだ段階に移っていく」という意味がある。中国語には b.「進展する」c.「（メンバーなどを）増やす」という独自義があるのに対して、日本語には d.「盛んに活躍する」という独自義もある。中国語の b. は日中に共通する a. の意味と極めて近い。さらに、中国語では「事態はまだ発展中だ」という言い方はよく使われており、b. の意味使用の一般性が高いと言える。それに対して、日本語では、「事態はまだ発展中だ」という言い方はない。そのため、CLJ は日中の類似意味のずれに気付きにくく、中国語でよく使われている用法を日本語にも適用できると思い、意味用法による誤用が起こる（表 5, No. 4）。このような O 語の意味習得は困難であると言えるであろう。

品詞の観点から分析すると、例えば、O2D 型である「緊張」は、誤用文の「緊張な国際情勢」（表 5, No.6）において、日中両言語にある「相互の関係が悪くなり、争いの

起こりそうな状態である」という意味が使われており、意味が一致しているが、品詞が全く異なる。日本語では名詞と動詞であるが、中国語では形容詞として使われている。また、この誤用文の全体の誤答率が75％であり、さらに4年生の誤答率が92.3％に達している。そのため、CLJは中国語の形容詞をそのまま日本語に転用してしまうと推測される。つまり、日中両言語の共有義において、品詞が異なる場合は、より中国語からの干渉を受けやすく、品詞による誤用が起こりやすいと言えるであろう。

4.2 O1型について

続いて、O1型（表6）を見ていく。まず、意味の誤用のみO1型に属する語と品詞の誤用のみO1型に属する語はいずれも3語であった。さらに、意味と品詞両方共にO1型に属するO語が2語であった。O1型の全体では、計8語で誤答率が50％以上のO語の4割となっている。この結果は、2.3で王（2013）が述べたCLJの場合、O1型における意味、品詞の片方或いは両方の誤用は生じにくいという結果とは異なっている。O1型は日本語の意味、品詞、或いは意味と品詞両方の領域が中国語より広いO語であるため、CLJは中国語の漢語知識を用いて、日本語を推測することが難しく、中国語からの正の転移が働きにくいため、誤用が生じる可能性がある。

表6　O1型の誤用実態

O1型	タイプ	語数	語彙（全体の誤答率）
意味	O1S	2	全然（75.0％）、時間（68.3％）
	O1O2	1	景気（55.0％）
品詞	O2O1	2	合作（75.0％）、処理（70.0％）
	O3O1	1	発生（68.3％）
意味・品詞	O1O1	2	発表（78.3％）、現金（61.7％）
合計		8	

4.3 二重誤用が生じやすい O 語

集計結果を踏まえて、意味及び品詞の誤答率が 50％以上である二重誤用されやすい傾向がある O 語は表 7 に示した通りである。

表 7　二重誤用されやすい傾向がある O 語

語彙（全体の誤答率）	問題文[14]（全体の誤答率）
発表（O1O1）（78.3％）	インターネットの利点は、だれでも自分の思うことを発表することができることだ。（意味：78.3％）
	研究論文が発表した。（品詞：61.7％）
以外（O2S）（70.0％）	国境以外の町。（意味：56.7％）
	乗車券以外、特急券が必要だ。（品詞：70.0％）
処理（O2O1）（70.0％）	売り場に残った商品を全部処理した。（意味：70.0％）
	データを入力したら、自動的にデータが処理する。（品詞：61.7％）
活躍（O2O3）（53.3％）	文字は脳の思考力を活躍するのに役立っている。（意味：51.7％）
	田中さんはとても活躍だ。（品詞：53.3％）
発展（O3S）（75.5％）	事態はまだ発展中だ。（意味：75.5％）
	科学技術を発展して、国の経済がますます発展した。（品詞：75.0％）
発生（O3O1）（68.3％）	私自身にもそういったことが時々発生するから、悩んでいる。（意味：68.3％）
	新しいシステムは、よくシステムエラーを発生した。（品詞：60.0％）
大事（O3O3）（66.7％）	一生の大事だ。（意味：66.7％）
	この本を大事する。（品詞：56.7％）
一切（O3O2）（58.3％）	一切の困難を、一人で克服した。（意味：58.3％）
	一切な手続きは、自分だった。（品詞：55.0％）

表 7 から分かるように、二重誤用されやすい O 語はほぼ OO 型（意味と品詞共に O 型）である。また、意味の観点から見ると、O3 型（4 語）が最も多いのに対して、品詞の観点から見れば、O1 型（3 語）が最多であった。つまり、日中両言語の意味領域には重複している部分があると同時に、それぞれの独自義があり、品詞領域においては、日本語は中国語より広い。そのため、日中両言語において意味領域の対応関係がより複雑で、一致する部分と一致していない部分が同時にあるため、CLJ は中国語の意味で日本語の意味を推測するのがより難しい。また、中国語の品詞領域は日本語の品詞領域に包含されているため、中国語にない日本語の品詞を推測しにくい可能性がある。従って、意味と品詞を結びつけた観点から見ると、O3O1 型は二重誤用が生じやすい O 語だと推測される。さらに、陳（2009）は使用の一般性（一般的に使われるかどうか）が高い意味が中国語と日本語で一致しない場合、負の転移としてマイナスの働きをすると言う。

[14] 取り上げられた問題文は各語の意味と品詞において最も誤答率が高い文である。

そのため、使用の一般性の影響により、CLJ がより主観的に容易に中国語の独自義・独自の品詞を日本語に当てはめてしまい、二重誤用が起こると考えられる。このような意味領域に多義性を持ち、品詞領域にバリエーションがある OO 型は学習者にとって習得しにくい O 語と言える。

4 節の分析結果を見ると、O 語の意味と品詞に対しては 3 年生と 4 年生でも習得が不十分であることが示唆される。おそらく、CLJ は中国語の漢語知識をそのまま日本語に適用し、さらに日中両言語の使用の一般性が高ければ高いほど中国語からの負の転移が起こりやすい傾向があるため、より中国語による過剰一般化が生じてしまう。特に、初級学習者は日本語能力がまだ不十分であり、中国語に大きく頼るため、O 語を学習する際に、より中国語の負の影響を受けやすい。

5 まとめ

本稿は、調査結果を踏まえ、二重誤用しやすい語の詳細について検討し、CLJ の O 語の誤用実態を明らかにした。以下、2 節で示した研究課題 2 点に対して回答していく。

① CLJ はどのような O 語を二重誤用しやすいか。

O 語の誤用の全体的な傾向を見ると、意味は品詞より誤用が生じやすく、CLJ は高学年になっても、O 語の習得が不十分であることが分かった。また、二重誤用されやすい O 語としては OO 型が最も多く、特に意味の O3 型及び品詞の O1 型が最多であった。さらに、意味と品詞を結びつけた観点から見れば、O3O1 型の O 語は二重誤用が生じやすい可能性がある。

② CLJ の O 語誤用に関わる要因は何か。

O 語の二重誤用が生じる原因には、主に中国語による母語干渉、O 語自身の要因、言語環境の制限という 3 つがあると考えられる。

CLJ は O 語を推測・判断する際に、中国語の知識や規則をそのまま日本語に転用してしまい、中国語による過剰一般化が起こり、誤用が生じる。特に、日中両言語の意味の類似性が高い語（例：発展）、また、日中両言語の意味がほぼ一致するが、品詞が異なる語（例:緊張）において、より中国語からの負の転移が見られ、誤用が生じやすい。つまり、O 語の習得は母語の正の影響より、負の影響をより受けやすいと言えるだろう。O 語自身は、意味・品詞両領域に多義性や複雑性、バリエーションがあり、学習者が日中両言語の対応関係を推測しにくいところがあるため、より中国語による母語干渉を引き起こしやすく、二重誤用が生じる主要な原因であると考えられる。また、調査対象語彙は初級教材から取り上げられたため、学習者は初級段階で早く O 語に接触すること

ができるが、日本語能力の不足や中国語に頼りすぎること、JFL 環境によるインプット量が足りないなどの言語環境の制限の要因により初級段階で誤用が早く起こると考えられる。そのため、初級段階における O 語学習をいかに正しく行うかを工夫する必要がある。例えば、教材で提示されていない日中両言語の意味・品詞の用法や違いなどについて教師が説明すれば、効果的に誤用を防ぎ、減らすことができると考えられる。しかし、同形語は同じ漢字で表記されるために、教師は CLJ なら意味が容易に分かり正しく使えるだろうと推測してしまい、指導上特に注意を払わない可能性がある（張･谷守 , 2013）。さらに、学習者は同形語を学習する際に、品詞を考慮しない傾向がある（侯 , 1997）ため、O 語学習がより困難であり、習得が滞る可能性がある。そのため、本稿で整理した誤用されやすい O 語リストをそのまま O 語の教育（特に初級段階）と学習に使用することを提案したい。また、教師と学習者の O 語に対する認識や捉え方の不十分なところ、注意すべきであるところ（O 語の意味と品詞を分離した教育・学習）などについて、「注意喚起」の役割を果たすこともできる。さらに、O 語の誤用軽減などに貢献できると考えられる。

6 今後の課題

本稿は、CLJ の O 語の意味・品詞における二重誤用の実態を明らかにしたが、課題も残っている。二重誤用の要因は、本稿で例示したもの以外にもありうる。今後はそれらについてさらに探り、調査語数を増やし、O 語の二重誤用の実態などについてより横断的な研究を行い、O 語の習得に資する二重誤用が生じやすい O 語のリストのデータを質的にも量的にも、より充実させることを目指したい。

参考文献

王燦娟（2013）「品詞と意味における二重誤用されやすい日中同形語に関する研究」『東アジア日本語教育・日本文化研究』16, pp. 29-56.

大河内康憲（1992）「日本語と中国語の同形語」『日本語と中国語の対照研究論文集（下）』, pp. 179-215, くろしお出版社（東京）.

加藤稔人（2005）「中国語母語話者による日本語の漢語習得－他言語話者との習得過程の違い－」『日本語教育』125, pp. 96-105.

河住有希子（2005）「中国人学習者の漢字語彙使用に見られる問題点」『早稲田大学日本語教育研究』7, pp. 53-65.

許雪華（2014）「日中同形語の量的分析」『或問 WAKUMON』26, pp. 113-122.

小森和子（2017）「日中同形語から見えること：似ているようで似ていない同形語の習

得の難しさ」『日本語学』36（11）, pp. 56-67.
小森和子・玉岡賀津雄（2010）「中国人日本語学習者による同形類義語の認知処理」『レキシコンフォーラム』5, pp. 165-200.
侯仁鋒（1997）「同形語の品詞の相違についての考察」『日本学研究』6, pp. 78-89.
石堅・王建康（1983）「日中同形語における文法的ズレ」『日本語と中国語の対照研究』5, pp. 56-82.
玉岡賀津雄（2000）「中国語系および英語系日本語学習者の母語の表記形態が日本語の音韻処理に及ぼす影響」『読書科学』44, pp. 83-94.
陳毓敏（2009）「中国語母語学習者の日本語の漢字語習得研究のための新たな枠組みの提案：意味使用の一般性と意味推測可能性を考慮して」『日本語科学』25, pp. 105-117.
張金艶・谷守正寛（2013）「中国人日本語学習者による日中同形語の誤用について－共有する意味を持つ「参考」「緊張」「注意」「一時」の場合－」『鳥取大学教育研究論集』3, pp. 59-67.
張婧禕（2017）「中国人日本語学習者の漢語同形語習得－同形類義語（Overlap 語）を中心に－」『愛知工業大学研究報告』52, pp. 6-13.
潘鈞（1995）「中日同形詞詞義差異原因浅析」『日本語学習与研究』3, pp. 19-23
文化庁（1978）『中国語と対応する漢語』東京 : 大蔵省印刷局.
三浦昭（1984）「日本語から中国に入った漢語の意味と用法」『日本語教育』53, pp. 102-112.
熊可欣・玉岡賀津雄（2014）「日中同形二字漢字語の品詞性の対応関係に関する考察」『ことばの科学』2（特集号）, pp. 25-51.
連國鈞（2013）「台湾人日本語学習者における日中同形語の認知」『桜美林言語教育論叢』9, pp. 51-66.

日本語教材

周平・陳小芬（編）（2009）『新編日本語 第 1 冊（修訂版）』上海 : 上海外語教育出版.
周平・陳小芬（編）（2010）『新編日本語 第 2 冊（修訂版）』上海 : 上海外語教育出版.
人民教育出版社・光村図書出版株式会社（編）（2013）『新版中日交流標準日本語 初級上・下（全 2 冊）』北京 : 人民教育出版.
彭広陸・守屋三千代（編）（2009）『総合日本語 第一冊（修訂版）』北京 : 北京大学出版.
彭広陸・守屋三千代（編）（2010）『総合日本語 第二冊（修訂版）』北京 : 北京大学出版.

辞典

中国社会科学院語言研究所詞典編輯室（2012）『現代漢語辞典』第 6 版. 北京 : 商務院書館.
山田忠雄他（編）（2005）『新明解国語辞典』第 6 版. 東京 : 三省堂.

データベース類（いずれも最終閲覧は、2021 年 11 月）

新城直樹他（2016）『JCK 作文コーパス』
http://nihongosakubun.sakura.ne.jp/corpus/
国立国語研究所　『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）』
https://clrd.ninjal.ac.jp/bccwj/
仁科喜久子他（2012）『学習者作文コーパス「なたね」』
https://hinoki-project.org/natane/misuse_search
日本語学習辞書支援グループ（2015）『日本語教育語彙表』
https://jreadability.net/jev/
北京言語大学　『BCC 漢語語料庫』
http://bcc.blcu.edu.cn/
李在鎬他（2013）『日本語学習者作文コーパス』
http://sakubun.jpn.org/